

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00530

研究課題名（和文）中国語圏文学におけるディアスポラおよび知日に関する研究

研究課題名（英文）Research on diaspora and Japanologist writers in Chinese-speaking literature

研究代表者

張 欣（Zhang, Xin）

法政大学・経済学部・教授

研究者番号：40424767

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000 円

研究成果の概要（和文）：張愛玲の作品をディアスポラ文学として取り上げ、張愛玲が中国語と英語の間での四回の転換をまとめ、張愛玲の文学的ないし文化的アイデンティティを追究した。また張愛玲小説の『小團圓』と散文の『小團圓』の関連および散文の『小團圓』の行方について考察した。李長声ら知日作家についての研究も続け、李長声の日本論を整理し、黄尊憲や周作人ら知日派の流れに入れて歴史的に捉える作業を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国語圏の文学を考える際、ディアスポラは大きなテーマであり、その国境を含めさまざまな境界を越えるようなスケールおよびその多岐にわたる解釈の可能性が研究者を惹きつける。本研究は中国語圏の代表的作家の一人である張愛玲を取り上げ、張愛玲の中国語と英語の間での四回の転換などを追究することにより張愛玲研究ないし華文学研究に新たな視点をもたらし、また知日派文化人における日本認識および東亜意識を考察することによりアジア文化研究に貢献することができればありがたいと思う。

研究成果の概要（英文）：Taking up Eileen Chang 's literature as diaspora literature, I summarized Eileen Chang 's four transitions between Chinese and English writing, and explored Eileen Chang 's literary and cultural identity. I also researched the relationship between Eileen Chang 's novel "Little Reunions" and her non-fiction prose "Little Reunions", as well as the fate of the latter. I also continued my research on Japanologist writers such as Li Chang-sheng. I studied Li Chang-sheng 's books on Japan and attempted to understand them historically by putting them in the context of other Japanologist writers, such as Huang Zunxian and Zhou Zuoren.

研究分野：文学一般

キーワード：ディアスポラ

## 1 . 研究開始当初の背景

二十世紀には戦火の延焼と科学の進歩が相乗し、世界中人的移動を頻繁かつ大規模にした。中国語圏において戦争、自然災害などによる人口移動は海外にまで至り、複数の場所を往還する人もおれば、ディアスポラの運命を辿った人もいる。代表的な事例は、十五年戦争および続く国共内戦ゆえの戦乱、挙げ句に一九四九年の大離散。測りしれない傷が人々の心を痛み、文学者に書かねばならない衝動を与え続けている。離散の状況下に人間の存在の根を探ろうとするディアスポラ中国語圏文学に魅力を感じ、それを研究対象として取り上げることにした。

## 2 . 研究の目的

研究において最初に取り上げたのは梅娘という満州(中国東北)出身の女性作家である。梅娘の、満州 日本 北京の越境の軌跡を追跡し、移動の経験や異郷の体験が彼女の創作に与えた意味を考えると同時に、梅娘周辺の満州作家や北京作家および台湾から来た文人ないし日本文人の存在にも触角を伸ばし、一つの時代の文学的側面を描き出そうとも思うようになった。東文研ではアメリカ出張を含め「在米華人文学」を対象に基礎的な研究を行い、後に中国近代文学における最高峰の一つである張愛玲の亡命後の創作を中心に論文を書いた。梅娘、張愛玲、龍應台の三人の女性作家が主役の『越境・離散・女性 境にさまよう中国語圏文学』(2019年7月法政大学出版局)では、この三人における越境、離散やポストメモリーなどのテーマを取り上げ、また張我軍、周作人らの日本研究についても論じており、知日派知識人論の基礎を築いた。それらの研究をふまえて、中国語圏文学におけるディアスポラおよび知日を探求するのが本研究の目的である。

## 3 . 研究の方法

中国文学のカテゴリーをこえ、中国語圏文学、華人文学などの概念を用いて張愛玲、龍應台から複雑な研究対象をとらえる。また精神分析学者エリック・H・エリクソン(Erik・H・Erikson)が提唱したアイデンティティ概念をナショナル・アイデンティティ、文化的アイデンティティの文脈まで拡大して用いる。

比較文学、比較文化の方法を視野に入れ、中国語圏における張愛玲とアメリカにおける中国系作家の張愛玲との異同等にスポットを当てる。またカルチュラル・スタディーズの手法を用いてテキストを読み解く。

国内および海外の図書館や研究機関を利用して研究資料を収集する。また関連のコンファレンスに参加し、最新の研究結果を知ると同時に各国の学者および作家との交流を通じて多様な示唆を得、学術的視野を広げる。

## 4 . 研究成果

ディアスポラ文学として張愛玲研究を進めた。2020年発表した「四度転身」(『書城』2020年12月)は張愛玲が中国語と英語の間での四回の転換をまとめ、張愛玲の文学的ないし文化的アイデンティティを取り上げた。2020年11月28日日本華文女性作家協会にて「張愛玲的四度転身」というテーマでオンラインにて講演した。

台北の皇冠出版社が出版した張愛玲と宋淇夫婦の三人の文通である『張愛玲往来書信集 1、紙短情長』『張愛玲往来書信集 2、書不尽言』および台北聯經出版社が出版した五冊の『夏志清夏濟安書信集』などにより張愛玲研究の新しい可能性を探り、張愛玲小説の『小團圓』と散文の『小團圓』の関連および散文の『小團圓』の行方について、「末炉香，小團圓」を執筆した(『随筆』2023年第3期)。2023年にロスアンジェルスにて、The 2nd World Chinese Writer's PEN Conference West America Forum に出席し、「兩個『小團圓』」というテーマで講演した(2023年7月9日)。

李長声ら知日作家についての研究も続けた。李長声の日本論を整理し、黄尊憲や周作人ら知日派の流れに入れて歴史的に捉える作業を進め、『東瀛閒話』を執筆した(『書城』2023年1月)。2022年11月25日国立清華大学華文文学研究所(台湾)主催の「當代華文散

文學術研討會」に「東瀛孤燈下の長聲閒話」というテーマの論文を提出し、オンライン方式で発表した。

## 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 1
2．論文標題 東瀛閒話	5．発行年 2023年
3．雑誌名 書城	6．最初と最後の頁 99-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 3
2．論文標題 末爐香，小團圓	5．発行年 2023年
3．雑誌名 隨筆	6．最初と最後の頁 169-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 12
2．論文標題 胡蘿蔔騎士岸恵子	5．発行年 2023年
3．雑誌名 読書	6．最初と最後の頁 150-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 5
2．論文標題 那一分鐘ni是和諧的	5．発行年 2022年
3．雑誌名 書城	6．最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 11
2．論文標題 太宰治的兩個作家女兒	5．発行年 2021年
3．雑誌名 書城	6．最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 長安(張欣)	4．巻 12
2．論文標題 四度轉身	5．発行年 2020年
3．雑誌名 書城	6．最初と最後の頁 94 - 102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1．発表者名 張欣
2．発表標題 張愛玲的的四度轉身
3．学会等名 日本華文女性作家協会
4．発表年 2020年

1．発表者名 張欣
2．発表標題 東瀛孤燈下的長聲閒話
3．学会等名 2022當代華文散文學術研討會（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 張欣
2．発表標題 兩個『小團圓』
3．学会等名 The 2nd World Chinese Writer ' s PEN Conference West America Forum ( 國際学会 )
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------